

評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所名	グループホーム兼清		
所在地	山口県光市浅江2400-4		
電話番号	0833-74-0100	事業所番号	3591000025
法人名	有限会社 兼清メディカルサービス		

訪問調査日	平成 21 年 12 月 14 日	評価確定日	平成 22 年 4 月 26 日
評価機関の 名称及び所在地	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク 山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		

【情報提供票より】

(1) 組織概要

開設年月日	平成 20 年 4 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員計	9 人
職員数	9 人	常勤 6 人 非常勤 3 人 (常勤換算 7.5 人)	

(2) 建物概要

建物構造	RC構造		造り	
	1 階建ての	~	1 階部分	

(3) 利用料等 (介護保険自己負担分を除く)

家賃	月額 50,000 ~ 53,000 円	敷金	無	円
保証金	有 150,000 円	償却の有無	有	
食費	朝食	350 円	昼食	600 円
	夕食	600 円	おやつ	100 円
その他の費用	月額 18,000 円			
	内訳 光熱水費 15,000円・運営管理費 3,000円			

(4) 利用者の概要 (11月15日現在)

利用者数	9 名	男性 0 名	女性 9 名
	要介護 1	5	要介護 4
	要介護 2	2	要介護 5
	要介護 3	2	要支援 2
年齢	平均 88.2 歳	最低 82 歳	最高 93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療 機関名	医科 兼清外科 歯科 儀本歯科
-------------	--------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

(優れている点)

地域のボランティアの訪問がたくさんあり、ギター演奏に合わせて歌ったり、コーラスを聴いたり、習字を習ったり、楽しみながら日々過ごせるよう支援されています。理念にも掲げている「美味しく食べて」を大切に考えられ、管理栄養士と調理師を中心に食事づくりがされ、栄養バランスのとれた食事が提供されています。利用者が嫌いな物は、他の食材に変え、食欲がない時には食べられるもので対応されています。時には手作り弁当を持って近くの公園に行ったりと、食事が楽しめるように支援されています。

(特徴的な取組等)

誤薬を防ぐ取り組みとして、利用者ごとに薬箱を設けており、看護師が一週間分の薬を仕分けして入れ、夜勤者が翌日の薬を朝・昼・夕と色分けされた一人ひとりの専用コップに入れ、服用時に再度確認する事で誤薬を防ぐよう努められています。医療連携体制加算があり、健康管理や医療活用の支援協力医(母体医療機関)の週1回の往診もされており、利用者や家族の安心に繋がっています。

【重点項目への取組状況】

(前回の評価結果に対するその後の取組状況)

前回の評価結果について職員会議で検討され、運営推進会議メンバーの増員や、苦情受付窓口としての外部機関の明示、職員研修への取り組みなどできることから改善に取り組まれています。

(今回の自己評価の取組状況)

評価の意義を理解され、項目ごとに担当を決め、全職員で自己評価に取り組まれ、管理者、計画作成担当者がまとめておられます。

(運営推進会議の取組状況)

地域包括支援センター職員、光市認知症を支える会会長、元小学校校長、市介護相談員、元民生委員、ボランティア、家族、施設長、管理者、職員等のメンバーで、小規模多機能型居宅介護施設と合同で2ヶ月に1回開催されています。状況報告や行事報告等をして、意見交換をされ、サービスに活かされています。昼食の試食会なども実施されています。

(家族との連携状況)

利用料の請求書送付時に、個々の金銭管理についても知らされています。行事の様子の写真やお知らせ等を載せた事業所だよりを3ヶ月に1回発行されています。面会時に暮らしぶりや健康状態を伝えておられます。面会時や介護計画の確認時、運営推進介護、電話等で家族から意見や要望を聞かれています。

(地域との連携状況)

小学校の挨拶運動への参加や自治会館での文化祭の見学、専門学校の文化祭への参加などされています。地域のボランティア(コーラス、ギター演奏、習字等)が定期的に来訪され、利用者や交流されています。事業所前の道路がマラソン大会のコースになっており、利用者も応援に参加され、地域の人と交流されています。

評価結果

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>理念に基づく運営 1. 理念の共有</p>			
1 (1)	<p>地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。</p>	<p>「住み慣れた地域で老いても人間らしく、美しく暮らそう。美味しく食べて元気になり、病気と共生し、長生きをしよう」という内容を4つの理念として作っている。</p>	
2 (2)	<p>理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	<p>理念を掲示し、月1回の職員会議で話し合い共有し、理念の実践に向けて取り組んでいる。</p>	
<p>2. 地域との支えあい</p>			
3 (7)	<p>地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	<p>小学校の挨拶運動への参加や自治会館での文化祭を見学したり、隣接の専門学校の文化祭に招待され交流している。地域ボランティア(コーラス、ギター演奏、習字等)が定期的に来訪し、利用者と交流している。事業所前の道路がマラソン大会のコースになっており、利用者は応援に参加し、地域の人と交流している。</p>	
<p>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</p>			
4 (9)	<p>評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>	<p>職員会議で評価の意義について話し、項目ごとに担当を決め、全職員で自己評価に取り組み、管理者、計画作成担当者がまとめ作成している。前回の評価結果について職員全員で検討し、運営推進会議メンバーの増員や苦情受付窓口としての外部機関の明示、職員研修の取り組みなど、できるところから具体的な改善に取り組んでいる。</p>	
5 (10)	<p>運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。</p>	<p>地域包括支援センター職員、光市認知症を支える会会長、元小学校校長、市介護相談員、元民生委員、ボランティア、家族、施設長、管理者、職員等のメンバーで2ヶ月に1回開催している。利用者の状況報告、行事報告、外部評価結果報告等をし、昼食の試食会をして、意見交換をし、出た意見をサービスに活かしている。</p>	
6 (11)	<p>市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	<p>地域ケア会議に出席し意見交換をしたり、書類提出等で担当課に出向いた折に相談等をしている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践する為の体制			
7 (16)	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	利用料の請求書送付時に個々の金銭管理についても知らせている。行事の様子を写した写真やお知らせを載せた事業所だよりを3ヶ月に1回発行している。面会時に暮らしぶりや健康状態を伝え、体調の変化や必要な職員の異動等も含め、その都度電話等で伝えている。	
8 (18)	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。	面会時や介護計画の確認時、運営推進会議、電話等で意見や要望を聞き、運営に反映させている。相談苦情受付窓口、担当者、外部機関を明示し、苦情処理の手続きを定めている。第三者委員は交渉中で決まる見込みである。玄関に意見箱を設置している。	・第三者委員を選任後の明示と周知
9 (20)	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	同一建物内にある小規模多機能型居宅介護施設と一緒に23名の職員を確保し、勤務シフトでどちらでも働けるようにし、柔軟に対応できるように、勤務の調整をしている。厨房を担当する管理栄養士や調理師、事務担当者、看護師を配置している。	
10 (21)	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、変わる場合は利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	離職を必要最低限に抑える努力をし、職員が働きやすいよう希望を聞いたり、個別に相談を受けて支援している。離職がある場合は、1ヶ月間の重複勤務で、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	
5. 人材の育成と支援			
11 (22)	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	職員の段階に応じた研修計画を立て、外部研修は勤務の一環として参加の機会を提供している。毎月、テーマを決めて内部研修や、外部研修受講後の復命研修を実施している。内部研修に参加できない職員には資料を回覧し、共通理解ができるようにし、働きながら学べるように取り組んでいる。	
12 (24)	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	市の地域ケア会議(月1回)に参加して同業者と意見交換する機会はあるが、交流までにはいたっていない。	・同業者と交流する機会の検討

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</p>			
13 (31)	<p>馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。</p>	<p>同一建物内にある小規模多機能型居宅介護施設の通いサービスや宿泊の体験利用等を行ったり、見学してもらい、家族と相談しながら、徐々に馴染めるように工夫している。</p>	
<p>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</p>			
14 (32)	<p>本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。</p>	<p>一方的な介護にならないように、地元の昔のことを教わったり、野菜の下ごしらえや、食事の準備を一緒にしたり、レクリエーションを楽しんだり、ともに過ごし支えあう関係を築いている。</p>	
<p>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握</p>			
15 (38)	<p>思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>	<p>介護記録に、思いや気持ちが伝わる利用者本人の言葉を、青色のペンで色を変えて記録し、一人ひとりの思いを全職員で共有するように取り組んでいる。困難な場合は家族と相談し、利用者本位に検討している。</p>	
<p>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>			
16 (41)	<p>チームで作る利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。</p>	<p>初回の介護計画作成は、ケア会議に利用者や本人も参加して行ない、意見や要望を聴き取って計画を作成している。2回目以降は面会時等に家族の意見を聞き、利用者の希望を採り入れ、往診時に聞いた主治医の意見や看護師、栄養士の意見など、それぞれの意見を反映した介護計画を作成している。</p>	
17 (42)	<p>現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行なうとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。</p>	<p>3ヶ月に1回モニタリングをして、期間に応じた見直しを行ない、利用者の状態に変化があった場合は、その都度家族等と話し合い、現状に即した新たな介護計画を作成している。</p>	
<p>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</p>			
18 (44)	<p>事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。</p>	<p>医療連携体制加算があり、健康管理や医療活用の支援をしている。医療機関への送迎や付き添い、買い物、訪問美容院の利用の支援をしている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
19 (49)	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	協力医(母体医療機関)が利用者のかかりつけ医となっており、週1回の往診や健康管理など適切な医療が受けられるよう支援している。歯科医への通院の支援をしている。	
20 (53)	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	重度化や終末期に向けた指針があり、早い段階から本人や家族、主治医、職員全員で方針を共有している。	
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
21 (56)	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	マニュアルがあり、利用者一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応をしないよう配慮している。気づいたら施設長や管理者が指導している。個人記録等は事務所に保管し取り扱いに注意している。	
22 (59)	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	1日のおおまかなスケジュールは決まっているが、利用者一人ひとりを尊重し、体調や気分に応じ、その人らしい暮らしができるよう支援している。	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
23 (61)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	三食とも事業所で管理栄養士と調理師が食事を作り、準備や後片づけを一緒にし、職員も同じ食事を食べている。週1回、職員が献立を考え、買い物から調理までをし、利用者から好評を得ている。残した食事を把握し、嫌いなものはおかずを変更し、食欲のない時は麺類にするなど食事が美味しく食べられるよう支援している。	
24 (64)	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	入浴は週3回、14時前から15時過ぎの間可能であり、利用者の希望や体調とタイミングに合わせて入浴が楽しめるように支援している。仲の良い人と2人で入るときもあり、楽しみの場となっている。入浴したくない人には無理強いせず、タイミングを見て声かけしている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
25 (66)	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	ギター演奏を聴いたり、歌を歌ったり、新聞やテレビを見たり、裁縫、ぬり絵、編み物、来訪した小学生に教わったオセロやパズル、ボール遊びを楽しんだり、野菜の下ごしらえ、洗濯物たたみ、掃除などの活躍できる場面をつくり、気晴らしや張り合いのある日々が過ごせるよう支援している。	
26 (68)	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	散歩や近くのスーパーに買い物に行ったり、ドライブに出かけている。利用者はドライブを楽しみにしているので、できるだけ外出できるように支援している。	
(4) 安心と安全を支える支援			
27 (74)	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が、「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。	マニュアルがあり、職員は正しく理解して、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。	
28 (75)	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	日中は鍵をかけないケアに取り組んでいる。外出を察知したら一緒に出かけて支援している。	
29 (78)	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	事故・ヒヤリはっと報告書に記録して原因を検討し、一人ひとりの状態に応じて介護計画に取り入れて再発防止に努めている。	
30 (79)	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	マニュアルや急変時の連絡体制は整っているが、応急手当や初期対応の定期的な訓練は行っていない。	・定期的な訓練の実施
31 (81)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	年2回、防災訓練(日中、夜間想定)を実施している。近隣の医療機関と協力関係にある。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
32 (84)	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。	利用者ごとに薬箱を設けて、看護師が個別に1週間分の薬を仕分けて入れている。薬箱に情報の紙をいれ、職員は薬の目的や副作用、用法や用量を理解している。薬は手渡して服用を確認し、必要な情報はその都度薬剤師に報告し、主治医に伝えている。	
33 (86)	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力量に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。	毎食後一人ひとりに合わせた口腔ケアを支援している。歯ブラシや義歯などの清掃、消毒、保管について支援している。	
34 (87)	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事量や水分摂取量をチェック表に記入している。管理栄養士が献立作成や調理に携わり、栄養バランス、食事量、水分摂取量が確保できるように支援している。一人ひとりの状態に合わせた形態にして支援している。	
35 (88)	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。	マニュアルがあり、手洗いやうがい、手指消毒を励行し、予防を実行している。手すり、便座、ドアノブ等を消毒している。	
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり			
36 (91)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。	フロアーには自然の明るい日差しが入り、中庭の木々や戸外が見渡せ、季節感が感じられる。台所からは、食事づくりの音や匂いがして、生活感があり、ソファでゆっくりとくつろげ、居心地良く過ごせるよう工夫している。	
37 (93)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	整理ダンスや衣紋掛け、生活用品などが持ち込まれ、家族の写真を飾るなど、居心地良く過ごせるように工夫している。	

自己評価書

【ホームの概要】

事業所名	グループホーム 兼清
所在地	光市大字浅江2400番地の4
電話番号	0833-74-0100
開設年月日	平成 20 年 4 月 1 日

【サービスの特徴】

- ・個人の今までの生活を大切にし、尊重する。また出来ることは見守りながら、レベル低下の防止に努めている
- ・同じ建物に小規模多機能もあり、体操やレクリエーションや行事など一緒に行う事が出来楽しんでいただいている
- ・買い物、ドライブなど外出して生活に変化をつけ日々を楽しく暮らしていただけるように支援している

【実施ユニットの概要】 (11 月 15 日現在)

ユニットの名称				
ユニットの定員	9 名			
ユニットの利用者数	9 名	男性 0 名	女性 9 名	
	要介護 1	5	要介護 4	
	要介護 2	2	要介護 5	
	要介護 3	2	要支援 2	
年齢構成	平均 88.2 歳	最低 82 歳	最高 93 歳	

【自己評価の実施体制】

実施方法	Sと同じ
評価確定日	平成 年 月 日

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取 組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
理念に基づく運営 1. 理念の共有			
1 (1)	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。		
2 (2)	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。		
3	運営理念の明示 管理者は、職員に対し、事業所の運営理念を明確に示している。		
4	運営者や管理者の取り組み 運営者や管理者は、それぞれの権限や責任を踏まえて、サービスの質の向上に向け、職員全員と共に熱意をもって取り組んでいる。		
5	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。		
6	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りしてもらえようような日常的な付き合いができるよう努めている。		
7 (3)	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。		
8	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
9	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	運営者と職員全員で自己評価・外部評価に取り組み、必要性はよく理解している。評価を活かして、改善の必要なところは少しずつ取り組んでいる。	
10 (5)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。	運営推進会議で結果を報告している。課題をテーマにして、意見をもらっている。	
11 (6)	市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。	運営者と管理者はできるだけ、地域ケア会議の出席や講演会、社会福祉協議会の研修に参加するようにしている。	
12	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用するよう支援している。	運営者は勉強しているが、職員にまで、行き渡ってはいない。	施設内研修や外部での勉強会等、職員全員に学ぶ機会を持つようにする。
13	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	運営者は勉強しているが、職員にまで、行き渡ってはいない。地域ケア会議など勉強会には参加するよう勧めている。虐待の早期発見に努めている。	施設内研修や外部での勉強会等、職員全員に学ぶ機会を持つようにする。
4. 理念を実践するための体制			
14	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約したりする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時には重要事項説明書を説明し、入所に当たっての不安、疑問点を説明して理解・納得して頂いている。利用開始後も気軽に聞ける雰囲気をつくるよう心がけている。	
15	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	苦情箱の設置、利用者の意見、不満等を気軽に言える雰囲気になっている。運営推進会議でも自由に意見を言えるよう配慮している。親族や近所、趣味の仲間等自由に来所できる様、来られたときは茶菓子を出してもてなしている。	もっと意見を聞きだす方法を考えたい。
16 (7)	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	家族が面会に来られた時、利用者の暮らしぶり(レクや行事の写真を玄関に貼り出している)や健康状態を話している。職員の異動は必要に応じて案内を出している。金銭管理は毎月、引落請求明細と共に領収書も付けて郵送か手渡しをしている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
17	情報開示要求への対応 利用者及び家族等からの情報開示の要求に応じている(開示情報の整理、開示の実務等)。		
18 (8)	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。		第三者委員を考えていきたい
19	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。		
20 (9)	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。		
21 (10)	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。		事業所に適した人を採用できるよう、工夫をした求人活動をできるようにする。
5. 人材の育成と支援			
22 (11)	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。		
23	職員配置への取り組み 多様な資質(年代、性別、経験等)をもった職員を配置することにより、多様な利用者の暮らしに対応している。		
24 (12)	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。		同業者との交流方法を考える。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。		
26	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。		休暇の取れる体制や環境をつくる。
27	職員の業務に対する適切な評価 運営者は、高い専門性やリスクを要求される管理者や職員の業務に対し、処遇等における適切な評価に努めている。		
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
28	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。		経営的に利用者の獲得にあせらないでいい状況にして、ゆっくり関われるゆとりを持てるようにする。
29	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。		経営的に利用者の獲得にあせらないでいい状況にして、ゆっくり関われるゆとりを持てるようにする。
30	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。		
31 (13)	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
32 (14)	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。		ご本人に合った役割を提供し、支え合い、馴染みのある作業や、経験のある調理などを通じてご本人から学んでいる。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
33	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	ご本人についての情報の共有をはかり、同じ目標に向かって、御家族と協力し合っている。		
34	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。	グループホームに馴染むことによって、ご家族の介護の軽減となり、本人とのより良い関係が保てるように支援している		
35	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	いつでも気軽にきていただけるように面会時間の緩和や行事参加の案内、定期的な通信誌の発行、長期ショートステイの利用者に対してへの外出する機会を設けている。		
36	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	個別レクと集団レクを組み合わせ、利用者同士の人間関係に努めている。		
37	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	契約終了後であってもいつでも相談があれば継続的な関わりを持てること出来るようにお話や受け入れをしている。積極的には何もしていない。		柔軟な対応ができるように、心の幅をもっともつ。
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握				
38 (15)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入所受け入れ時に家族を交えてご本人の思いや暮らし方の希望や意向を話し合い介護記録に思いや気持ちが出た本人の言葉をそのまま青色のボールペンで記録し出来る限りのことが叶うように努めている		
39	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入所時には必ず情報提供をしていただき生活歴や生活習慣サービス利用の経過などを把握するようにしている		
40	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	各部署の職員(医師、看護師、介護職員、栄養士、ケアマネ、事業職員など)同上の記録の引継ぎや連携を保つ事で一人一人の一日の過ごし方、心身の状態、有する力や助成を職員が総合的に把握共有する努力をしている		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
41 (16)	チームで作る利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	初回は利用者家族を含めケア会議を行い希望や意見を聞いて介護計画を立てている。2回以降は面会時に家族の希望や本人の希望も聞き施設長、ケアマネ、看護師、介護士、栄養士が話し合い又医師との連携を保ちながら介護計画を作成している	
42 (17)	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	通常モニタリングアセスメントを3ヶ月に1回行い、3ヶ月に1回介護計画を作成しているが利用者の状況の変化があった場合には随時見直しを行い新たな介護計画を作成している	
43	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の様子やケアの実践結果を個別の介護記録に記入し日々の引継ぎに情報を共有して実践や介護記録の見直しに活かせるようにしている	
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
44 (18)	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	本人、家族の状況や要望に応じて買い物や散髪や協力病院への受診の支援をしている	
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
45	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	現在週1回ボランティアによるギター演奏で合唱やボランティアによる書道教室を開催している	
46	事業所の地域への開放 事業所の機能を、利用者のケアに配慮しつつ地域に開放している(認知症の理解や関わり方についての相談対応・教室の開催、家族・ボランティア等の見学・研修の受け入れ等)。	地域の開かれた事業所にする為に近隣の住民、家族、ボランティアなどの見学、学生の研修などの受け入れを実践している。	
47	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他の介護支援専門員やサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	本人、家族の意向に必要なに応じて、地域の介護支援専門員と連携を取り、他のサービスを利用する為の支援を行っている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。		
49 (19)	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。		
50	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。		
51	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員(母体施設の看護師等)あるいは地域の看護職(かかりつけ医の看護職、保健センターの保険師等)と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。		
52	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。		
53 (20)	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。		
54	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。		急変時の対処を十分準備する。
55	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
56 (21)	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。</p>	<p>利用者一人ひとりに対してのプライバシーの尊重、言葉づかいや対応の仕方は日々の関わりの中で施設長や管理者が指導し職員間でもお互いに注意し合いスタッフ全員に徹底するように努めている個人記録等も事務所に適切に保管している</p>	
57	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>日常生活の中で、ご本人が遠慮する事なく過ごせるように日頃からご本人の希望や自らの力量をもっと発揮できるように支援している。</p>	
58	<p>“できる力”を大切にされた家事への支援</p> <p>家事(調理、配膳、掃除、洗濯、持ち物の整理や補充、日用品や好みの物などの買い物等)は、利用者の“できる力”を大切にしながら支援している。</p>	<p>出来る事、やりたい事を大切にしながら無理強いせず、日用品や好みの物などの買い物等を利用者の出来る力を大切にしながら支援している。</p>	
59 (22)	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>基本的な1日の流れの中で、一人ひとりのペースを大切に支援している。小規模多機能ケアとつながっており、自由に行き来し、起床時間や食事の時間も柔軟に対応している。</p>	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
60	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>できるだけ毎日同じ衣類を着る事がないように身だしなみには気を配るようにしている。</p>	
61 (23)	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>調理は管理栄養士と調理師がしており、職員も同じ食事を食べている。誕生会には本人の好みに合わせて用意し、嫌いな食べ物は個別に対応している。食事形態も一人ひとりに合わせて食事を楽しめるように配慮している。</p>	
62	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて、日常的に楽しめるよう支援している。</p>	<p>本人の嗜好については、出来る限り好みの物を提供するように努めている。病気等で摂取制限があれば個別に対応している。</p>	
63	<p>気持ちのよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。</p>	<p>オムツの使用については、夜間就寝時のみの使用で対応しており、日中は紙パンツでトイレ誘導している。また、尿意があれば日中はトイレ誘導・夜間はナースコール対応でポータブルトイレで排泄介助をしている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
64 (24)	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。		
65	安眠休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり、眠れるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
66 (25)	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。		
67	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や状態に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。		
68 (26)	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。		
69	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。		今後、家族と共に出かけられる行事を考えて行きたい
70	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。		年賀状を書ける人の支援。
71	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。		
72	家族の付き添いへの支援 利用者や家族が家族の付き添いを希望したときは、居室への宿泊も含め適切に対応している。		希望があれば臨機応変に対応している。(宿泊用の簡易ベット、布団等備えている)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
73 家族が参加しやすい行事の実践 年間の行事計画の中に、家族が参加しやすい行事を取り入れ、家族の参加を呼びかけている。	敬老会には家族の参加をしていただいている。普段は訪問時にしているレクに参加してもらっている。		もう少し、スタッフが落ち着いてきたら、参加できる行事を増やしたい。
(4)安心と安全を支える支援			
74 (27) 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。	身体拘束をしないケアの実践は理解しているが緊急やむを得ない時には、家族の同意を得ている		
75 (28) 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	運営者及びすべての職員は居室や玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。職員の見守り可能な時間帯であれば、外に出たいという要望に応じている。総合警備のおかげで、就寝時意外は鍵をかけていない。		
76 利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	利用者の希望があれば、その都度計画を立てて実行している。安全確認は、利用者の生命に係わる重要なことである事を職員全員が理解しており、常に利用者の所在や様子を把握しながら安全確認をしている。		
77 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	利用者の心身の状態を観察しながら、職員が話し合い一人ひとりの状態に応じて危険の回避ができるように取り組んでいる。(利用者の状態をみて危険であると判断した場合預かる)		
78 (29) 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	ヒヤリ・ハット、事故所報告書の記録から原因を話し合い防止に努めている。緊急時マニュアル作りをしているが施設訓練はまだしていない。		
79 (30) 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	病院との連携がとれており定期的には緊急時の実施訓練は行われていない。		
80 再発防止への取り組み 緊急事態が発生した場合や、発生の可能性が見られた時には、事故報告書や”ヒヤリはっと報告書”等をまとめるとともに、発生防止のための改善策を講じている。	事故報告書やヒヤリ・ハットの報告書は作成されている。また再発防止のための改善策を講じている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
81 (31)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。		
82	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
83	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。		
84 (32)	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。		
85	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。		
86 (33)	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。		
87 (34)	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。		
88 (35)	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。		
89	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり			
90	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	利用者や家族、近隣の人達が気軽に自由にいつ来られてもいのように玄関に鍵をかけず堀や門扉がなく訪問しやすい建物のつくりになっている	
91 (36)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。	中庭を中心として設計、開放的な窓と空間に合わせた照明を設置している。広いホールを数ヶ所の扉とカウンターで仕切っている	
92	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ホールに数箇所のテーブルを設置している他に和室やソファを設置している	
93 (37)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	利用者自身の馴染みの物品(衣類、写真等)の持込を柔軟に対応している	
94	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	定期的な窓の開閉とエアコンの調節を併用している	
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
95	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送ることができるように工夫している。	自力歩行者、車イス対応者が共に自力できるよう出入口を重点とした手すりの設置と全面バリアフリー設計となっている。	
96	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	事前のアセスメントによる個別のケアプランに基づいた支援を行っている	
97	建物の外周リや空間の活用 建物の外周リやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	中庭や完全舗装の外回りを散歩等の気分転換に活用している	

項目		取り組みの成果 (該当する箇所を 印で囲むこと)	
. サービスの成果に関する項目			
98	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	ほぼ全ての利用者の 利用者の1 / 3 くらいの	<input checked="" type="checkbox"/> 利用者の2 / 3 くらいの <input type="checkbox"/> ほとんど掴んでいない
99	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。	<input checked="" type="checkbox"/> 毎日ある <input type="checkbox"/> たまにある	数日に1回程度ある <input type="checkbox"/> ほとんどない
100	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。	<input checked="" type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどいない
101	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	<input checked="" type="checkbox"/> 利用者の2 / 3 くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどいない
102	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。	<input checked="" type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどいない
103	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。	<input checked="" type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどいない
104	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。	<input checked="" type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどいない
105	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。	<input checked="" type="checkbox"/> ほぼ全ての家族等と 家族の1 / 3 くらいと	家族の2 / 3 くらいと <input type="checkbox"/> ほとんどできていない
106	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。	ほぼ毎日のように たまに	<input checked="" type="checkbox"/> 数日に1回程度 <input type="checkbox"/> ほとんどない
107	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	大いに増えている あまり増えていない	<input checked="" type="checkbox"/> 少しずつ増えている <input type="checkbox"/> 全くいない
108	職員は、生き活きと働けている。	<input checked="" type="checkbox"/> ほぼ全ての職員が 職員の1 / 3 くらいが	職員の2 / 3 くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどいない
109	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input checked="" type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどいない
110	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input checked="" type="checkbox"/> ほぼ全ての家族等が 家族等の1 / 3 くらいが	家族等の2 / 3 くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどできていない